■□ 愛知県陶磁器工業組合　1935年(昭和10）

建物の左手が旧館、右手が新館。旧館の外壁は新館建設時に外壁を新刊と同じものに張り替えた。「柿泥(伊奈製陶）」？の二丁掛タイルが使われている（薄釉掛）

建物北側にある「瀬戸陶磁器会館」の看板のある旧館の玄関。庇上部と玄関開口部周りにはクリーム色の施釉テラコッタが張られている。
テラコッタ寸法：330×260

庇上部のテラコッタによる装飾

玄関開口部周りのテラコッタ。中央のレリーフ部(410×430）と左右のボーダー（410×90）で構成されている。

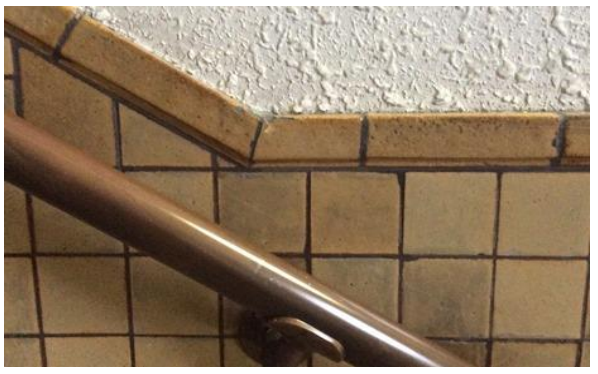
北側の玄関ロビーのタイル張りの腰壁。
タイル寸法： 75×75

腰壁の近接画像。右に延びる面は継ぎ足しの部分か、明らかに創建時のタイルと異なる。左手の創建時のものは色味は暖かく、見切りのタイルの断面形状も複雑で凝っている。

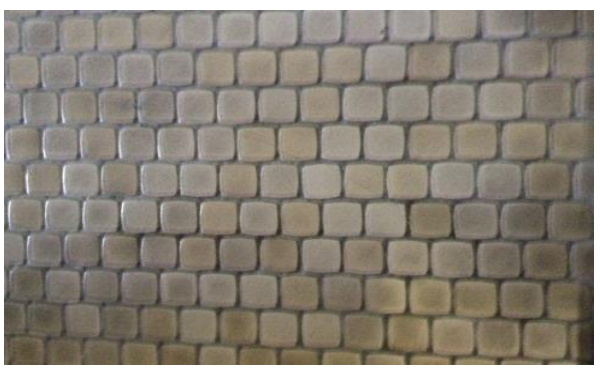
北側玄関ロビーの壁にある陶器製のブドウの葉や実による壁装飾

旧館の階段周りのタイル張り。
タイル寸法：60×60

階段周りのタイル張り腰壁。内反りのR平ボーダーが使われている。ボーダー寸法は幅：35　長さ90、120



階段周りのタイル張り腰壁。白壁との見切り部に付近には、台形のタイルを制作して張っている。タイル寸法は約60×60、台形のものは、60×90程度の大きなものからカットして施釉し、焼成。湿式成形品。



新館床のラグランモザイク。

新館ロビーの壁画「陶の春」（加藤鈔作）

【特 徴】

昭和61年旧館の西に隣接して新館が建造されたときに、外壁は新館と同じの柿色の薄釉二丁掛タイル張りで統一されている。
北側の旧館玄関周りの内外を中心に、テラコッタと湿式成形の正方形のタイルが腰壁として統一して使われている。